

## 第11回住宅系研究報告会 プログラム

### ■主旨:

住宅・住宅系まちづくりのテーマは、建築社会システム・建築計画・都市計画・農村計画などで取り上げられ、大会では毎年多くの論文が発表されています。昨年度に引き続き、横断的な発表・討論の場を設定し、研究成果の共有、研究者間の交流を続けるため、第11回目の住宅系研究報告会を開催します。

報告会では発表・討論の機会を重視し、司会とは別にコメンテーターを設け、意見交換や議論を通してさらに研究や活動が発展することを意図しています。

また、第二日目午後には講演会・座談会を開催し、総合的な議論の機会を設けます。

■日時: 2016年12月2日(金)、12月3日(土)

■会場: 日本建築学会建築会館会議室

### ■全体プログラム:

#### □1日目(12月2日)

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| 開会の挨拶・主旨説明: 山本幸子(筑波大学)  | 13:15~13:30 |
| セッション1 [住空間・住様式のモデル]    | 13:30~14:30 |
| セッション2 [復興プロセスと住まいの諸相]  | 14:45~16:00 |
| セッション3 [伝統的な地域資源の評価と継承] | 16:15~17:15 |

#### □2日目(12月3日)

|                         |             |
|-------------------------|-------------|
| セッション4 [コミュニティ活動と地域づくり] | 9:45~11:00  |
| セッション5 [居住継続の支援策]       | 11:15~12:15 |
| セッション6 [住宅地の更新と持続可能性]   | 13:15~14:30 |

講演会・座談会 14:45~16:45

【テーマ】「越境する住宅系研究の展望: 平山洋介氏と語る」

分野横断を意図して始まった住宅系研究報告会も「次の10年」に入る。これからの社会はますます複雑に不安定になっていくように見える。前提を異にする他者と議論する機会の意義が高まるなかで、研究はどのような役割を果たすことができるだろうか。

今回は、日本の住宅政策や住宅事情について、分野横断的に研究活動を展開され、その成果を国内外に発信しつつこられた平山洋介氏をお招きして、これまでの研究活動の軌跡をお話いただく。その上で、海外や異分野との他流試合、制度や実践と研究との関係、住宅・居住という不動点の意義などを話題として研究の方法と戦略を議論する。住宅系研究の「次の10年」を展望する機会としたい。

【進行】

小山雄資(鹿児島大学)

閉会の挨拶: 長谷川 洋(国土技術政策総合研究所) 16:45~17:00

懇親会 17:30~

■参加費: 会員3,000円、会員外4,000円、学生1,500円

■資料代: 5,000円

■定員: 90名(当日先着順)

## ■発表プログラム

○1日目(12月2日)

### セッション1 住空間・住様式のモデル

13:30～14:30 司会:藤岡泰寛(横浜国立大学) コメントーター:花里俊廣(筑波大学)

- 001 日本の超高層集合住宅事例の全体計画と共用空間・施設計画の特性と変化  
ー1990年以降の建築系月刊誌に掲載の事例を通してー  
○高井宏之(名城大学)
- 002 混住型学生宿舎の計画と運営に関する研究  
ースーパーグローバル大学創成支援採択大学の先導的事例を対象としてー  
○吉田千春(明治大学大学院)、田中友章、飯田捷
- 003 住宅地の類型と心理学的機能から見た住宅計画の課題  
ー首都圏千葉地域における事情ー  
○服部岑生(ちば地域再生リサーチ・千葉大学)、鈴木雅之

### セッション2 復興プロセスと住まいの諸相

14:45～16:00 司会:前田昌弘(京都大学) コメントーター:中島伸(東京大学)

- 004 2015年ネパール地震による旧市街地における居住形態の変化に関する研究  
○高寒(東京大学)、サキヤラタ、大月敏雄、井本佐保里、藤田悠樹
- 005 バクタプル旧市街地における2015年ネパール地震に対する地域コミュニティの活動に関する研究  
○Shakya Lata(サキヤラタ)(東京大学)、大月敏雄、井本佐保里、高寒、藤田悠樹
- 006 福島県復興公営住宅の入居者へのコミュニティ形成支援・生活支援の現状と課題  
○柳瀬有志(株式会社アルテップ)、長谷川洋
- 007 接収解除の長期化が都市の居住機能回復に及ぼす影響の考察  
ー戦災と長期接収を経た横浜の復興過程を例にー  
○藤岡泰寛(横浜国立大学)

セッション3 伝統的な地域資源の評価と継承

16:15～17:15 司会:友淵貴之(和歌山大学) コメンテーター:平田隆行(和歌山大学)

- 008 帰納論理プログラミングを用いた伝統的町並み景観における構成要素の分析  
—京都の重要伝統的建築物群保存地区 産寧坂および祇園新橋を対象にして—  
○田中佑奈(武庫川女子大学)、岡崎甚幸
- 009 まちづくり物語のテキスト分析を通じた地域社会のつながり形成に関する研究  
—村上市の町おこしの物語における地域資源の働きを可視化して—  
○延原理恵(京都教育大学)、碓田智子、田中勝、佐藤慎也
- 010 都市近郊農村における農業及び農村住宅の継承に関する考察  
—神戸市北区〇集落を対象として—  
○山口秀文(神戸大学)、山崎寿一、宮入彩

〇2日目(12月3日(土))

セッション4 コミュニティ活動と地域づくり

9:45～11:00 司会:山本幸子(筑波大学) コメンテーター:碓田智子(大阪教育大学)

- 011 集合住宅コミュニティの誘発を目的とした組織の運営課題に関する研究  
—大阪府大阪市福島区の〇事例を対象として—  
○佐野こずえ(近畿大学)、藤本佳子
- 012 DIY 促進に向けた建築関連事業者によるサポートとサポートの利用者の意識に関する研究  
○伊丹康二(大阪大学)、永井麻美、横田隆司、飯田匡
- 013 災害時要援護者支援の観点からみた防災まちづくり活動の実態と課題  
—神戸市における防災福祉コミュニティを対象としたアンケート調査を通じて—  
○岡田尚子(神戸大学大学院)、大西一嘉、竹葉勝重
- 014 小学校教育における共用地管理の視点を取入れた学習内容の検討  
—ごみステーションの利用と管理の実態に関する調査研究—  
○関川華(岡山大学)、上森聖子

セッション5 居住継続の支援策

11:15~12:15 司会:小山雄資(鹿児島大学) コメンテーター:長谷川洋(国土技術政策総合研究所)

- 015 三重県における子育てサロンの運営実態に関する研究  
—「民間による運営」・「既存建築ストックの活用」に着目して—  
○松浦健治郎(千葉大学)
- 016 小規模多機能型居宅介護サービスと連携する高齢者の共同居住住宅の運営実態  
—兵庫県相生市 M の家の居住者履歴を通して—  
○宮野順子(兵庫県立福祉のまちづくり研究所)、絹川麻理、高田光雄
- 017 中国の地方都市における高齢者福祉施設の入所理由と改善要望の検討  
—大連市、西安市、成都市の事例比較—  
○長屋栄一(名城大学)、鈴木博志

セッション6 住宅地の更新と持続可能性

13:15~14:30 司会:松浦健治郎(千葉大学) コメンテーター:桑田仁(芝浦工業大学)

- 018 集合住宅団地における外部空間の更新とそのプロセスにみる居住者意識  
—千葉市ニュータウンでの団地外構整備計画の実践 その2—  
○鈴木隆文(鈴木隆文建築設計事務所)、服部岑生、鈴木雅之、陶守奈津子
- 019 公営住宅整備における住民参加の検討とその導入手法に関する課題考察  
—北海道東神楽町新町団地建替計画の策定プロセスを事例として—  
○村上賢人(北海道大学)、森傑、野村理恵
- 020 三原台アレイハウスにおける設計方針の継承に関する研究  
○岡絵理子(関西大学)
- 021 神戸市住吉地区における住宅地形成過程と住吉学園の土地経営  
—土地所有者の変遷と区画の細分化に着目して—  
○森井夏樹(神戸大学)、山崎寿一、山口秀文